

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		小学校管理事務	担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	学校教育の充実	種別	法定事務
	基本事業	安全・安心な教育環境の整備	市民協働	その他
予算科目コード	01-100201-01 単独	根拠法令・条例等	学校教育法，学校保健安全法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 非常勤職員（学校医，学校歯科医，学校薬剤師，学校介護補助員，学校用務員，学校給食配膳員）の報酬等，各種消耗品，光熱水費，通信運搬費，土地賃借料，災害共済掛金等の支出をする。
学校教育法第5条により，学校の設置者はその設置する学校を管理し，その学校の経費を負担することとされており，学校設置当時の経費で光熱水費等を支出するもので，学校を運営していく上で必要な事業である。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
小学校において，全ての児童が安全で快適に学習できる教育環境の維持を図り，健やかな成長の一助とする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒が，安心して学べる環境を整備する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
市内小学校で支援を必要とする児童が増加している。	児童の状況に応じ，学校介護補助員を増員し対応を図る。（通年） 任用までの流れ 1 学校から学校教育課へ学校介護補助員増員要望を提出 2 学校教育課職員及び指導室の特別支援教育担当職員による状況確認（学校に訪問し，児童の様子を観察） 3 増員の可否を決定 4 増員の場合，学校介護補助員の募集 5 応募者との面接及び選考 6 任用契約
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
学校介護補助員を増員し，対応を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	今年度，既に学校介護補助員を2名増員したことに加えて，来年度から学校給食配膳員，学校用務員及び学校介護補助員が会計年度任用職員になるため，人件費の増加が見込まれる。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の実組（評価、課題への対応）
学校への予算説明会で、市の財政状況の説明と経費削減への理解を求めた。	年度当初に学校への予算説明を行い、消耗品等の購入に当たっては、真に必要なかどうかを改めて考え、経費削減の意識をもって執行するよう指導を行い、経費削減への理解を深めてもらうよう取り組んだが、支出額が増加した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
児童数（人）	4,196.00	4,254.00	4,257.00	4,222.00	4,222.00
児童1人当たりの支出額（円）	32,887.00	33,158.00	33,361.00	41,270.00	41,270.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	児童の教育環境の確保のために必要な経費で、現状維持するものである。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	来年度も引き続き学校への予算説明会を実施し、予算執行の際の留意事項の再確認や経費削減への理解を求める。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	134,871	140,341	139,079	191,856	191,856
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,905	1,928	1,873	1,863	1,863
	一般財源	132,966	138,413	137,206	189,993	189,993
正職員人工数（時間数）		333.00	465.00	717.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,365	1,941	2,942	0	0
トータルコスト		136,236	142,282	142,021	191,856	191,856

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		小学校管理備品購入事業	担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	学校教育の充実	種別	法定事務
	基本事業	安全・安心な教育環境の整備	市民協働	その他
予算科目コード	01-100201-03 単独	根拠法令・条例等	学校教育法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 児童及び教職員が使用する机・椅子，管理上必要な備品，運動用具等の学校備品整備を行う。
児童の教育環境を整備することを目的とし，学校設置時から机・椅子等の学校運営に必要な管理備品を購入する 驕B	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
小学校の各種備品を整備し，小学校の教育環境の整備，充実を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒が，安心して学べる環境を整備する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
学校備品については，新年度早い時期に使用する備品について，早期の納品を実施する必要があるが生じている。 また，学校規模の格差により，机や椅子等一部の学校備品については不足や余剰が生じている中で，有効活用を図る必要が出ている。	備品の早期納品に向けてのスケジュール 3月末 備品購入優先順位の精査 4月～6月 入札 8月末 納期 ※備品購入については，基本として夏休み中での納品を目指す。 また，現有状況により，随時，増加校減少校間で机や椅子等一部の学校備品の移動を行う。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
教育環境に支障が出ないよう，新年度早々に入札を実施する必要がある。 また，財産の有効活用を図るため，学校間の備品等の移動を積極的に行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	毎年，備品の老朽化や破損により更新の必要なものが生じるが，学校間での移動を行うなどして予算額を抑えていきたい。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度を取組（評価、課題への対応）
小学校から購入を希望している備品を挙げてもらい、優先順位の高いものから購入することで、必要最小限の備品購入に努めた。	小学校から購入を希望している備品を挙げてもらい、優先順位の高いものから購入することで、必要最小限の備品購入に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
小学校運営備品購入額（千円）	10,450.00	9,368.00	10,748.00	25,358.00	25,358.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	必要最小限の備品購入である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	学校で必要な備品を計画的に購入していく。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	23,254	9,368	10,748	11,981	0
	国・県支出金	10,900	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	9,368	10,748	0	0
	一般財源	12,354	0	0	11,981	0
正職員人工数（時間数）		168.00	141.00	183.00	0.00	0.00
正職員人件費		689	589	751	0	0
トータルコスト		23,943	9,957	11,499	11,981	0

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		中学校管理事務	担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	学校教育の充実	種別	法定事務
	基本事業	安全・安心な教育環境の整備	市民協働	その他
予算科目コード	01-100301-01 単独	根拠法令・条例等	学校教育法，学校保健安全法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 非常勤職員（学校医，学校歯科医，学校薬剤師，学校介護補助員，学校用務員，学校給食配膳員）の報酬等，各種消耗品，光熱水費，通信運搬費，土地賃借料，災害共済掛金等の支出をする。
学校教育法第5条により，学校の設置者はその設置する学校を管理し，その学校の経費を負担することとされており，学校設置当時の経費で光熱水費等を支出するもので，学校を運営していく上で必要な事業である。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
中学校において，全ての生徒が安全で快適に学習できる教育環境の維持と健やかに成長することを図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒が，安心して学べる環境を整備する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
学校運営のために必要な費用を過不足なく支出する。	通年 必要経費を漏れなく支出する。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
学校運営に必要な経費を漏れなく予算計上し，支出する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	学校給食配膳員，学校用務員及び学校介護補助員が会計年度任用職員になることに伴い，人件費の増加が見込まれるため。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度を取組（評価、課題への対応）
学校への予算説明会で、市の財政状況の説明と経費削減への理解を求めた。	年度当初に学校への予算説明を行い、消耗品等の購入に当たっては、真に必要なかどうかを改めて考え、経費削減の意識をもって執行するよう指導を行い、経費削減への理解を深めてもらうよう取り組んだ。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
生徒数（人）	1,768.00	1,889.00	1,869.00	1,862.00	1,862.00
生徒一人当たりの支出額（円）	32,005.00	28,357.00	27,829.00	33,263.00	33,263.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	生徒の教育環境の確保のために必要な経費で、現状を維持するものである。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	来年度も引き続き学校への予算説明会を実施し、予算執行の際の留意事項の再確認や経費削減への理解を求める。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	49,502	53,079	49,649	61,935	61,935
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	838	851	817	816	816
	一般財源	48,664	52,228	48,832	61,119	61,119
正職員人工数（時間数）		272.00	428.00	576.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,115	1,787	2,363	0	0
トータルコスト		50,617	54,866	52,012	61,935	61,935

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		中学校管理備品購入事業		担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	年度～
	施策	学校教育の充実		種別	法定事務
	基本事業	安全・安心な教育環境の整備		市民協働	その他
予算科目コード		01-100301-04 単独	根拠法令・条例等	学校教育法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 生徒及び教職員が使用する机・椅子，管理上必要な備品，運動用具等の学校備品整備を行う。
生徒の教育環境を整備することを目的とし，学校設置時から机・椅子等の学校運営に必要な管理備品を購入する事業である。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
中学校の各種備品を整備し，中学校の教育環境の整備，充実を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒が，安心して学べる環境を整備する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
学校備品については，新年度早い時期に使用する備品について，早期の納品を実施する必要があるが生じている。 また，学校規模の格差により，机や椅子等の一部の学校備品については不足や余剰が生じている中で，有効活用を図る必要が出ている。	備品の早期納品に向けてのスケジュール 3 月末 備品購入優先順位の精査 4 月～6 月 入札 8 月末 納期 ※備品購入については，基本として夏休み中での納品を目指す。 また，現有状況により，随時，増加校減少校間で机や椅子等一部学校備品の移動を行う。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
教育環境に支障が出ないよう，新年度早々に入札を実施する必要がある。 また，財産の有効活用を図るため，学校間の備品等の移動を積極的に行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	毎年，備品の老朽化や破損により更新の必要なものが生じるが，学校間での移動を行うなどして予算額を抑えていきたい。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
中学校から購入を希望している備品を挙げてもらい、優先順位の高いものから購入をすることで、必要最小限の備品の購入に努めた。	中学校から購入を希望している備品を挙げてもらい、優先順位の高いものから購入をすることで、必要最小限の備品の購入に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
中学校運営備品購入額（千円）	6,365.00	4,010.00	6,100.00	6,000.00	6,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	必要最小限の備品購入である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	学校で必要な備品を計画的に購入していく。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	12,605	4,010	6,101	7,095	0
	国・県支出金	5,594	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	4,010	6,101	0	0
	一般財源	7,011	0	0	7,095	0
正職員人工数（時間数）		124.00	137.00	108.00	0.00	0.00
正職員人件費		508	572	443	0	0
トータルコスト		13,113	4,582	6,544	7,095	0